

## 本遇寺真宗関係史料 一括(6点)

### 本遇寺真宗関係史料

ほんぐうじしんしゅうかんけいしりょう

### 分野／部門

有形文化財／歴史資料

### 所有者

宗教法人 本遇寺(ほんぐうじ)

### 所在地

大阪市福島区福島 3

### 紹介



### 本遇寺真宗関係史料

本遇寺は真宗大谷派(しんしゅうおおたには)の寺院で、長享 3 年(1489)の方便方身阿弥陀如来画像(ほうべんほっしんあみだによらいがぞう)を伝えている。本遇寺が寺地を構える福島の地に、蓮如(れんによ)の時代に門徒集団が形成されていたことを示す一次史料であり、画像本尊と裏書、附属する文書 2 点の合計 4 点が、既に美術工芸品として大阪市指定文化財となっている。その後、調査の進捗により、中世にさかのぼる墨書による大幅(たいふく)の十字名号(じゅうじみょうごう)や、近畿地方では非常にめずらしい 4 幅の蓮如絵伝(えでん)などが確認された。すでに指定した画像を補完する貴重な文化財である。

## 用語解説

真宗大谷派(しんしゅうおおたには) 真宗の一派で、京都東本願寺を本山とする。

方便方身阿弥陀如来画像(ほうべんほうしんあみだによらいがぞう) 真向きの阿弥陀如来立像を描いた真宗特有の画像。

蓮如(れんにょ) 1415～1499 室町時代の真宗の僧。本願寺 8 世門主で、中興の祖と称される。

十字名号(じゅうじみょうごう) 「帰命尽十方無碍光如来(きみょうじんじつぽうむげこうによらい)」の 10 文字を記した名号を真宗特有の本尊として用いた。

絵伝(えでん) 貴人・高僧などの伝記を、連続する絵と詞書(ことばがき)とによって示したものの。